三ヶ所（さんがせ）遺跡

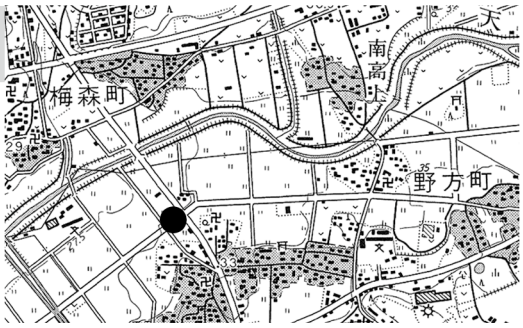
所 在 地　日進市浅田町地内

調査理由　県道岩崎名古屋線建設

調査期間　平成 13 年 10 月～ 12 月

調査面積　1,550 ㎡

担 当 者　石黒立人・松田　訓・堀田剛史



調査地点（1/2.5 万「平針」）

調査の経過　調査は県道岩崎名古屋線建設に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成 13 年 10 月から 12 月にかけて実施した。調査面積は 1,550 ㎡である。

遺跡の立地　三ヶ所遺跡は、猿投山西南麓に市域を広げ、名古屋市に東で接する日進市に所在する。遺跡は、岩崎川、天白川、折戸川が合流した地点のやや下手に位置し、これらの河川によって開削された浅く広い谷に立地する。調査地点の旧態は水田で、周辺は土地改良事業によって水稲耕作地が広がる。現地表高は、約 28.2 mを測る。

調査の概要　調査地点の基本層序は、現水田耕作土の下に約 0.1 mの客土が盛られており、その下に旧耕作土が 0.1 ～ 0.2 m入り、その直下に明黄褐色シルトが約 0.3 m堆積する。この明黄褐色シルト層は無遺物で、さらにこの下に須恵器・灰釉陶器を主体とする遺物包含層である黄灰色シルト層が 0.1 ～ 0.3 m堆積する。この層は客土を入れる際に填圧を行ったためか極端に締まっており、調査を難航させた。基盤層はにぶい黄橙色シルトで、この層は一部が窪地状に落ちこんでおり、ここには径 1 ～ 4 ㎝の円・角礫を多く含むにぶい黄橙色細粒砂が堆積する。

今回の調査で確認された遺構は、溝が 5 条、土坑 24 基、不定型な掘り込み 7 基などである。

平安時代の遺構では、主として溝が検出された。これらは、谷を流れる川の方向と併行して東西方向に検出され、このうちの 2 条は溝の中心間の距離 5 m内外を保って併走する。これらの併走する溝下層からは、平安時代中期の灰釉陶器を主体とし須恵器も出土している。

中世初頭の遺構は、山茶碗・皿を含む土坑が 1 基のみ確認された。この土坑は、灰釉陶器を主体とした遺物が出土する溝を切っており、先に述べた併走する溝は中世初頭の時期には機能していなかったものと思われる。

このほかには、礫を大量に含んだ自然流路と思われる痕跡が検出されたが、戦国時代の陶器片がわずかに含まれており、この痕跡は当該期の河川の氾濫に伴うものと思われる。

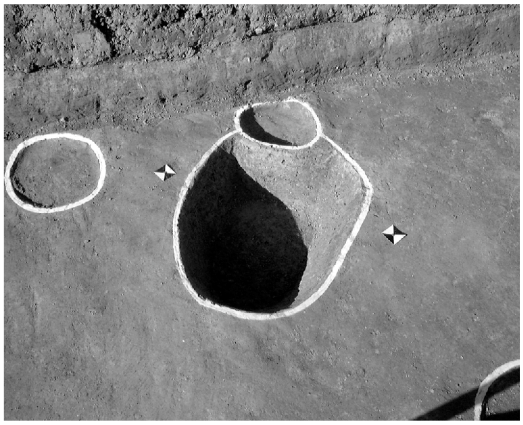
（松田　訓）

C 区から A 区を臨む（西から）

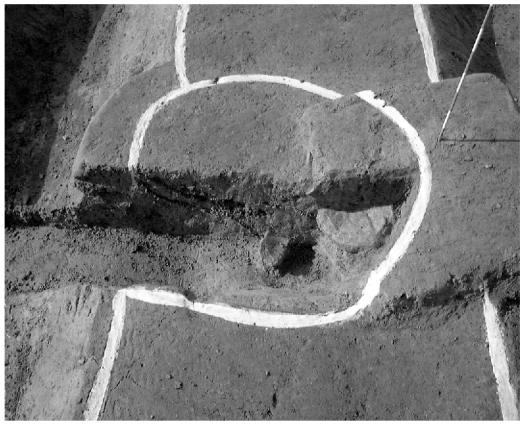
A 区全景（南西から）

C 区全景（南西から）

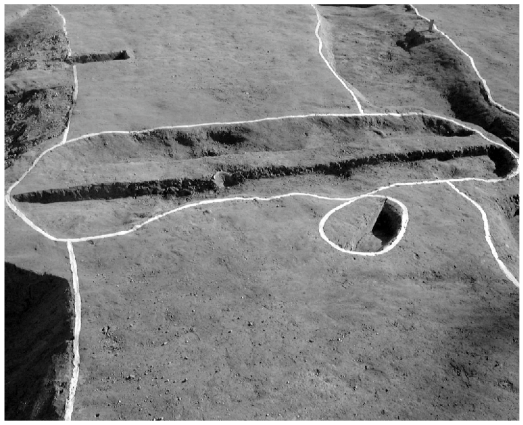
古代の溝と自然流路



土坑完掘状況



遺物出土状況



中世初頭の土坑

作業風景